

# 第1回行財政改革有識者会議 議事概要

日 時：令和3年6月3日(木)13:40～15:40  
(web方式で開催)

## 1 開会（知事挨拶）

今般のコロナ禍を通じて、我が国の社会経済システム、人々の価値観が大きく変化してきております。

また、今後、2040年頃にかけて人口減少・高齢化等の進展により、支え手・担い手の減少などの資源制約に伴い、地域社会の持続可能性に関する様々な課題が顕在化するとされておりまして。

このような中でも、離島を含めた県民の皆さんに対し、しっかりと行政サービスを提供し、県民の皆さんが県内でしっかりといきいきと暮らしていける鹿児島県づくりを行う必要があります。

本日の会議では、新たな行財政運営の指針策定の考え方、今後の検討の方向性やスケジュールについて、ご説明させていただきますが、本日お集まりの皆様方におかれましては、今後の社会経済情勢の変化にも的確に対応した持続可能な行財政構造を構築するため、どのような方策をとるべきか、積極的に御議論・ご意見いただきますようお願いいたします。

## 2 会長選出

鹿児島県行財政改革有識者会議設置要綱第5条第1項の規程により、委員の互選により、宇那木正寛鹿児島大学教授が会長に選出された。

また、同要綱第5条第3項により、会長が、林田吉恵鹿児島大学教授を職務代理者に指名した。

## 3 議事

### (1) 資料説明

事務局が資料説明を行った。

### (2) 意見要旨

(別紙のとおり)

## 第1回行財政改革有識者会議 意見要旨

委員名	意見要旨
石窪委員	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 持続可能な行財政改革とあるが、気になるのは、離島も含めて災害等が少なくない県であること。公共施設等の老朽化への対応も含め、今後、減災、防災の取り組みをどう考えていくのか</li> <li>・ 民間との連携はあらゆる面で必要だが、人材面において、長期的、なおかつ時代に即した人材育成の仕掛けが求められる</li> <li>・ 県が新しい時代に向けて、大きなビジョン、県民に理解してもらえるように分かりやすい方向性を示していくことが重要</li> </ul>
宇那木委員	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 県の信頼性・透明性を確保するために発信力を強化することが必要</li> <li>・ 公聴機能が、県は少し弱いと思うので、政策・ビジョンを作る上でも、住民から意見を聞く機会やシステムを作る必要</li> <li>・ 都道府県間の連携も少し考えられたらどうか</li> </ul>
桶谷委員	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 医療費削減というのが歳出の部分には非常に重要な問題になってくる</li> <li>・ 日本健康会議の地方版みたいなものを作って、就業世代を守っていくというのがとても大切</li> <li>・ 子宮がんに関して、鹿児島は若い世代で非常に罹患率が高い。人口減少にも拍車がかかってしまうことになるのでここを何とかしないとイケない</li> </ul>
國弘委員	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 県民と県との間の信頼関係が成り立っていないとどんなに素晴らしい方針があっても実行されても、県民になかなか理解してもらえない。信頼関係が揺らいでいないのか、県行政をされている方々がどう感じているのか、そのあたりを計る目安、データなどを持っていないか。次回以降示して欲しい</li> <li>・ 信頼関係が揺らいでいるということであれば、項目では必要ないかもしれないが、前文にでもこの信頼関係の再構築を触れてあると、今コロナで大変苦勞している人は将来を見据え、頑張ろうという気持ちになるのではないか</li> </ul>
下町委員	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 行政サービスをどういう方向で展開していこうとしているのか示せないか。これからの十年間はこれが大事ということがあるのではないか</li> </ul>
辻委員	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 今回一番のポイントはDX改革。DXは、場所を離れていろいろ世界と繋がることもできるので、非常に大きなチャンスを与えてくれる</li> <li>・ アナログの併用とデジタルというのが一番コストも人員もかかる。最終的にはデジタル化に統一されていくのだろうが、この併存期間をどうやっていけばいいのかというのは、今後のコストも含めてなかなか重要な話。どうしたらより効率的な姿で、しかも入口から出口まで、本当の実効性の上がるDXができるかというのを、しっかり考えて制度設計してもらおうというのが重要</li> <li>・ この10年間で一番大きい点は定年延長。この10年間に、県庁のスリム化や実効性を確保しながら、安定的に雇用をしていけるか考える必要</li> <li>・ 公務員は人気なくなり優秀な人が来る時代ではなくなった。魅力ある職場を作っていないと、地方の方でも優秀な人材が確保できなくなってきているので、働いている本人も達成感を感じるような職場を作っていくことが重要。そのきっかけをしっかりと行財政改革の大綱の中に書き込んで欲しい</li> <li>・ 財政は非常に見極めが難しい。今まで経験したことないぐらいの歳出の伸びと、歳入の落ち込みになっているので、多分半世紀ぶりの厳しい局面とかも、迎えるのかもしれないという状況。そうした中で、結局国のいろんな動向を見</li> </ul>

委員名	意見要旨
辻 委員	<p>極めつつも、それに左右されず、骨太で、政策をしっかりと実行していくための財政のあり方を考えて欲しい</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 理念の話は、総合計画などで考えると思うが、鹿児島は次世代型に持続的に発展できていける余地があると思っており、このような体制を、業務体制面でもどうやったらバックアップしていけるかを考えたかどうか</li> </ul>
津 委員	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 歳出を抑えるために、デジタルトランスフォーメーションを進めていかないといけないし、ダウンサイジングを進めていかないといけない</li> <li>・ デジタル化の促進を軸に据えながら、最終的な県民との接点業務というか、そういったものの質をうまく担保するような形のハイブリッド型を考えていくべき</li> <li>・ 公共事業のところ、これはもう人口も減っていくわけだから、やはりダウンサイジングをしていかざるをえない</li> <li>・ 2040 年に残るものをセレクトするとか、公共マネジメントに対してのしっかりとした考え方をそろそろ示す時期ではないか</li> <li>・ ダウンサイジングしながらも流動人口を増やすということと、県産品の付加価値を上げるということについては、積極財政として考えていくべき</li> <li>・ すべてのものを緊縮するのではなく、どこに重点を入れてどこを具体化できるかというところで、結果的には県の大きなグランドデザインというもののなかで、そういうものが同意されて計画されていくもの</li> </ul>
永 委員	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 施設等は人口の多い時に作られてきたものが現存しており、いろんな意見があるが、住民と議論しながら行財政改革を進めていかないといけない</li> <li>・ 夢のあるワクワクするような施策についてはどんどん打っていけるような対応も必要。出を厳しくすれば行財政改革はできる。県民がそれに満足するのか、魅力ある町につながっていくのかどうか大きなポイント</li> </ul>
永 委員	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 行財政改革というのは、人財改革。人口減少で行政サービスが追いつかなくなり、地域の人にいろんなものを投げていったときに、動く人達がほとんど少なくなっている状況を危ぶんでいる。地域の中で、自分の力を持てる力を発揮させていくような仕組みづくりをするべき</li> <li>・ 地域の文化をつないでいくことも地域の課題としてあるので、そこをしっかりと見据えていく体制も必要</li> <li>・ 国庫金の使い方を市町村の方たちが勉強してよく見定めて使っていただき、地域の活性化につなげてほしい</li> </ul>
新 委員	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 感染症や大規模災害、経済危機といったイベントリスクが今後も避けられないなか、行財政運営においてレジリエンス(復元力)の観点は一層重要</li> <li>・ 県民の納得感を得る観点からも、エビデンスに基づく政策判断、費用対効果の可視化といったプロセス改革が同時に必要</li> <li>・ 関係主体を広域的な視点でつなぐ役割は今後一層重要。人口推計に基づいたリアルな連携基盤を構築する必要</li> <li>・ ハード面でのPFI/PPP活用はもちろんのこと、ソフトの分野でも次世代型の官民連携を検討する余地</li> <li>・ DXは、行政DXの話か、地域産業の生産性向上やイノベーション創出の話か視点が複数ある。県民があまねくデジタル社会の恩恵を享受できることが大前提。具体的な内容、ゴールイメージとタイムラインを定めていく必要</li> </ul>
林 委員	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 行財政改革の前にまず県のビジョンを決めてほしい。それによってミッションが決まってくる。選択と集中で、どこに力を入れるかを示さないと県民の納得</li> </ul>

委員名	意見要旨
林田委員	<p>が得られないのではないかと。ビジョンができて初めて、そこからの政策がいろいろ出てくる。そこをまず示してほしい</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 自主財源をたくさん持っておかないと厳しい。少ないのは何故か</li> <li>・ 人件費が多いが、それぞれの県の特徴があると思うので、鹿児島県の特徴として(例えば島が多いなど)、こういう状況だから人件費が多くても仕方ないというようなことが、ちゃんと説明できるようになっていなければならない</li> <li>・ 「給与制度の適切な運用」は、コストカットをすると、優秀な人材が来なくなるのではないかと。そういうところも考えてやっていかないといけない</li> <li>・ 普通建設事業費が全国と比べて多い。どういう理由かを知った上で、ビジョンを作っていたら、その中で方向性を示すという形でやっていく必要があるのではないかと</li> </ul>
本坊委員	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 地域は誰が支えるのかということを考えると、当然、住民があくまでも主役となり、住民の理解と協力のもと、行政が共生・協働をどのように進めていくのかということが大事</li> <li>・ より一層デジタル化が進展し、マイナンバーカードの普及も進むと予想されるが、これをしっかりと県民生活の中に浸透させ、十分に活用されるようにしていく必要</li> <li>・ 国の提言だけではなく、地域の声も踏まえて欲しい。基礎自治体である43市町村の宝を更に磨くと、県全体も輝くと考えている。県と市町村が、目指すべきものをお互い共有して、より一層対等の立場で支え合って進めていけるよう、そのためには、地域振興局の役割が大きい。積極的に市町村と一緒に行動する地域振興局のあり方を考えてほしい</li> <li>・ コロナ禍で気づいたこと、分かったことを今後の政策にしっかりと活かして欲しい</li> <li>・ この新たな方針を作ったことにより、来年度から何かが始まったと確実に実感できるように施策にしっかりと反映させていきたい</li> </ul>